**アンケートピックアップ**

**６月５日　株式会社リンク・アイ　代表取締役社長　　渡辺　隼太　氏**

**問１ 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

これまでの経営者の講義は主に、自社の経営方針についての内容が多かった。その中で、私はその経営者の方々ほどの行動力やクリエイティブさを持ち合わせていないと薄々感じていた。つまり、自分の将来をとても不安に感じていた。経営者には向いていないとなると、企業勤めという選択肢が自然と浮かんでくる。そういうことを考えると、自分が会社で働いて働き甲斐や生きがいを感じることができるのかと不安になる日があった。しかし、今回の講義でいい意味で不安を解消できた。「頼れるものは自分しかいない」という言葉が一番心に残っている。会社に勤めると働き甲斐を得られるか心配していた自分は幼稚すぎて恥ずかしくなった。どこの会社に勤めようと自らキャリアを築いていく姿勢が大切なのだと知った。自分にできることとできないことはあるけれど「選ばれる」人間になるために、固定観念にとらわれずに生きていきたいと思った。（経営学部　1年）

今から50年前は月面着陸した年であり、今から50年後はどうなっているか全くわからないし、進化しているというのは説得力があった。「選んだ道を正解にする」という言葉が印象的だった。自分の選んだ道を後悔するときはよくあるが、それをポジティブに捉え自分に言い聞かせるというのがいいなと思った。私は安定を求めがちだが、「真の安定とは何か」と考えるのは大切だと思った。「働くのはなぜか」という問に対しての答えが、誰かの役に立ちたいからというのは同じことを考えていたが、それを深く考えることができた。「誰のためか」というのを更に考えたい。興味があるコンサルティングの話を同じ出身の方から話を聞けて、とても貴重な時間だった。今までの講義で1番好きだった。（経営学部　1年）

「志」とは探すものではなく決めてみるもの、という言葉が大変心に響きました。大学３年になり、6/１からインターンシップのエントリーも開始している状況で、周りの人々が何か「これがやりたい！」「こうして社会を変えたい！」などのビジョンをもってアグレッシブに前向きに動いている中、自分は何一つやりたいこともなく、動けず、立ち止まっている状況でした。正直高校時代までは、部活であったり勉強であったり、クラスや周りの人に対してこう動きたいという目標を見つけ、本気で余力を注いでいたのに、いつしかそのパワーがなくなってしまっていました。「なるようになるかな」「どっかしらに就職できるかな」なんて甘い考えだったけれど、こんな自分じゃどの企業からも求められるような人材にはなりえないし、程遠いと痛感しました。「好きなものもやりたいことも今はないけど、いつかは見つかるのでは」なんて受身に待っていても何も始まらないと思えたので１度自分で、本気で力を注げるものを決めて動かしてみようと今、決めました。自分のキャリアは自分で築いて、企業から選んでもらえるような人になり、誰かの役に立っていきたいと思います。（理工学部　化学生命系学科　３年）

「orではなくandで生きる」という言葉が印象に残った。将来なにかを選択するときに何かを選べないという状況よりも、何かを選んでも他の選択肢を選べるという状況が理想的だと思った。また、なぜ私達は働くのかという問いは今までにも何回かあった。しかし、今回の講演ではっきりとイメージすることができた。それは「誰かの役に立つ」というものだ。家族や恋人といったうちの人だけでなく外の人にも役に立つようなことをしたいと思った。（経営学部　１年）

始めに誰でも簡単にできることをやって、それが今から何を話すのかのメッセージになってたり、話もおもしろかったし、人の心を掴むのが上手だなと思いました。最初のつかみって本当に大事だと思うし、最初の印象で聞き方が変わってしまうのが人間だと思うから、そこをうまく掴める話術を持っているのはすごいと思いました。しかも、最初だけじゃなくて途中でも笑うポイントが何度もあって集中力を切らせない話術がすごかったです。私は院に行かずに就職する予定なので、今日の話はとてもタイムリーでとてもためになりました。今、やりたいこともなりたい職業もないから、志の持ち方が分からなかったけど、「探すものじゃなくて、決めてみる」という言葉がすごく心にささりました。「決める」じゃなくて「決めてみる」というのが良かったです。(理工学部 化学生命系学科 3年)

アイカンパニーというワードに今後生き抜く社会で活躍居続けるための理念が詰まっていると感じました。確かに今後の社会は今までとは全く違う、そして流動性の高いものになるはずであり、その変化に柔軟に対応しいていくには個々の価値を高めることとどれだけ固定観念を払拭していくかが重要だと思います。企業のモチベーションを切り口にコンサルティングしているということで、実際の具体的な活動とそこからどうやって利益を捻出しているかも気になるので少し調べようと思います。（経営学部　１年）

「固定観念」は家庭環境と学生時代のコミュニティと仰っていたことが印象に残りました。確かに私たちは井の中の蛙なのかもしれません。「固定観念」にとらわれてはいけないとは直感的には分かりますが、自分が世論だと思っているものは実は自分の「固定観念」なのかもしれないと考えさせられました。また、大学生活において「志」を探すものだと思っていましたし、探すものだからこそ、インターン等をするのだと勘違いしていました。「志」は「決めてみる」ものである、と学びましたので、自分が何にコミットメントしたいのか、自分の中にあるぐるぐる、もやもやしたものの中から決めるために、新しい志が降ってくるのを待つのではなく、学生時代に使いたいと思いました。(経営学部　1年)

「働くとはどういうことなのか。」「30歳になったときに自分がどうなっていたいか。」「誰の役に立ちたいのか誰の問題を解決したいのか。」という問いが印象に残りました。今私は4年生になり、教師という道に向かって進んでいるところですが、これらのことに対しての考えが足りていないなと気づかされました。「とりあえずは教師になろう」と考えていて（もちろん子どもが好きだからという理由はありますが）教師になって具体的に自分は何をしたいのか、子どもにとって地域にとって同様に役立ちたいのかというところをもっと考えていきたいと思いました。それを考えずに教師になるのと考えながら教師になるのでは仕事の内容も変わってきそうだと思いました。（教育人間科　音楽学科　4年）

**問２ 今後のアクションにつなげていきたいこと**

ミスではなく失敗になるようにCanの輪の外のことに挑戦していきたい。(経営学部　１年)

志は決めてみるものだと言っていた。確かに早く決めることも大事かもしれないが、大学に入り、自分がいかに浅い人間かが分かったので、せめて大学在学中はもっと可能性を探りたいと思う。よって自分は志を決めるために色々なものに取り組むという志を立てようと思う。(経営学部　1年)

選んだ道を正解にしたいです。アメフトじゃなくてダンスをすれば良かったのかと思ったりもするけど4月に心を決めた時の志を思い出して、心から頑張ろうと思いました。人を笑顔にし続けたいということが私の中に常にあって、そこから広げて、誰かの役に立つことを意識した姿勢、行動をしていきます。久しぶりに情熱を思い出しました。今、キャリアでも部活でも色んなことに対してワクワクしています。心から感謝します。しっかり考えて積極的に行動します。(経営学部　1年)

大企業に入れば、生涯安定という時代はもう終わった、社会は変わり続け、その変化のスピードは段々速くなっているから自分も常に変化していかないといけないと思う。選んだ道を正解にする、自分が辿った過去は変えられない、ならばその経験から学び、今できる最大限のことをしたいと思う。価値交換社会、Give and Take、ビジネスとして成功するにはGiverとして誰に何を与えるのか、社会に目を向け、問題点を見つけ早く決断したい。(経済学部 1年)

自分のいるコミュニティの外にアプローチし、自分のビジョンを他人と共有する。実現に向けた具体化を始める。（経営学部　１年）

**授業スタッフの感想**

今回の講義は、今までの講義のなかで最も学ぶものが多かったような気がする。というのは、原体験や価値交換社会、さらには志についてなど様々なお話を伺うことができた。一番印象に残っているのは私が常日頃考えている「志」についてで、実は志は既に自分の中にあると伺った時、大変驚いた。渡辺さん曰く、志を決めるのはスピードがものをいうそうなので自分の原体験を考えたり外の世界へのまなざしをもちながら、‶一旦″志を決めて、その後再設定をし続けていきたいと思う。また講義後のお話であった企業選びの基準として「経営者の目線の高さ」があるというのも新鮮で参考になった。

本日講演をしてくださった渡辺さんは今まで来てくださった方々とは違い、企業の中で上を目指していくうちに社長になったという新しいパターンだった。やはり、志を持つこと、そしてそれを周囲に言い続けること、これが成功への道なのかな、と考えた。志を持つためにcanの幅を大学時代にできるだけ広げたい。そのために、一日一個新しいことに挑戦する、もしくは新しく始めたルーティーンを継続することを心掛けたい。そして、100人の中で1番と自信をもっていえるものを身につけたい。（1番を持てというのは、高校時代のバスケットボール部でも顧問の先生にたびたび言われていたのを思い出した。）

みんなの感想を読んできて、自分では気づかなくても私たちは何かしらの固定観念に縛られて生きていると思った。大学生活が始まって、もちろん新しいことに挑戦したいとか、新聞を毎日読みたいとかいう気持ちはあったが、日々の生活に夢中で、何もできずに2か月が過ぎてしまった。そろそろもっと社会に目を向けたい。誰が何を必要としているのか、自分に何ができるのか、もっと自分の内側にも外側にも広く目を向けていきたい。